

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が自己の持つ力を十分に発揮し日々の生活に張り合いや喜びを感じ、住み慣れた地域で当たり前の生活が営まれるよう支援することを理念として掲げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を誰でも見やすい場所に提示し、管理者と職員で共有しながら実践に向けて日々取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者を書いていただいた理念を事業所内の見やすい場所に提示したり、月一回発行の広報に載せ、家族や地域に発信している。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当ホームの行事ごとに近隣の人を呼んだり朝市の場を提供したり、近くの食品団地内の店まで買い物がてら散歩し、交流を図っている。	近くの温泉施設に時折利用者と共に足湯に出かけたり、春の食品団地祭りに出かけ交流している。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化交流展に作品展示と見学に行ったり、法人全体の夏祭りには地元人々の協力、参加などを通じ交流を図っている。	地域の行事等に参加することで交流を図っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な取り組みは今のところ実施していないが、今後地域に貢献できる様取り組んでいきたい。		今春、地元地区川岸にミニパーク整備事業計画があり、苑での桜の苗木を植樹し維持管理に参加するといった具体案や、缶拾い清掃に参加することを運営推進会議を通し話し合われている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、良い点の継続と改善点を検討し、改善できるよう取り組んでいる。		閉じこもらない生活の支援とし、時間を決め、開錠を試みている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、地域支援に結び付けている。		災害時の地域協力体制や地域文化交流展でグループホームの理解を示すべく、展示場所を設けていただき参加することが出来た。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議において南地域包括支援センターのケアマネージャーに参加して貰い意見を頂いているが、現状では市長村と連携を図っているとはいえない。		市の担当者の方々にも運営推進会議にも参加して貰う機会を図り、市との連携を密に行っていきたいと考えている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前入所された方の家族が制度を申請されるというケースがあり、直接的な支援ではなかったが制度を知る機会となった。全職員が制度を学ぶような研修は実施されていない。		今後権利擁護や成年後見制度に関する知識を深める研修参加や話し合いの場を持ち、支援する体制を作っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に関する文章を掲示し、知識や人としてのモラルを高めると共に虐待防止に努めている。		事業所内・外研修の参加。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や解約時は、契約書の説明から日々の生活に関する事柄を十分に説明し、家族の要望も考慮している。</p>	<p>入所するに当たっての説明のほか、退所後の生活も考慮し対応している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見や不満、苦情等話しやすいような関係作りに努め、日々の生活の場で表出できるよう支援している。</p>	<p>利用者の意見や不平不満等を運営推進会議で話し合い、改善に向け運営に反映させていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の来苑時または電話にて、苑でのご様子や健康状態など、定期的又は状態によっては密に連絡を取っている。</p>	<p>苑でのご様子を載せた広報を毎月発行したり、来苑時に近況報告を行っている。特変時には特に密に連絡を取っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事ある毎に、家族より承諾を得ており、苦情に関しても随時承っている。ケアプランに関しても家族の意見を反映させている。</p>	<p>ご意見箱を設置するなどし、不満苦情の言いやすい環境を整える。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は毎月開催している職員会議にて運営方針を説明し職員の意見や提案を聞いたり都度話し合っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>事前に解る受診や行事、入退所などの状況にあわせ、増員するなど勤務の調整に努めている。</p>	<p>緊急時や家族の都合の付かない受診や、外出時は職員が対応出来るようにしている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>必要な人事異動はあるが、利用者様へのダメージを防ぐ努力をしている。</p>	<p>職員異動は事前に知らせてあり、異動の前に利用者との馴染みとなるように研修を受けている。</p>
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>職員は各委員会に所属しており、定期的に関催される委員会活動内容やマニュアルについて報告し、周知されている。</p>	<p>防災、感染症対策委員会ではマニュアルの周知に加え全員参加のシミュレーションを行い、万が一に備えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は定期的に社内研修や社外研修に参加し、それについての発表や意見交換を通し、日々のケアに生かすようにしている。	社外研修においては職員会議で意見交換を行っている。社外研修の情報を多く得たい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや勉強会といった具体的な活動には至っていないが、時折他事業所との交流があり、情報交換や日々の取り組みなど話し合う機会となっている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に親睦会を設け、ストレス軽減に努めている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は定期的に自己評価し、自己を振り返る機会がある。職員一人ひとりに業務中での役割や担当が与えられ、任せられている。	ホーム内の役割担当を決め、担当者が中心となり業務に取り組んでいる。又、事業所全体の委員会に参加し向上を図っている。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事業所の相談員が当ホームの相談員も兼ねており、利用申し込みがあった時点で本人、家族と面談し、困っていること等情報収集し、受け止める努力をしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問にて利用者の状態把握と家族の不安や希望を聴いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャー、相談員からや事前訪問などで情報収集を行い、入所後も日々の状態変化は密に家族・主治医との連携を図っており初期に対応できるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に安心して頂く為に家族等と相談し家族に泊まっていたり頻回に来苑していただいたり、職員からの話し掛けも多く持つように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者様と行事に参加し一緒に楽しんだり、日常生活においても昔の風習や知恵を利用者から学び、支えあう関係を築いている。		節目節目の季節料理作り、催し物等利用者に学びながら行っていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族に行事等をご案内し、一緒に楽しんでいただく機会を提供したり、利用者のご様子を家族に報告し、相談しながら支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事前訪問やセンター方式の活用により情報収集し、理解を深め本人と家族との関係がより良くなるよう配慮し、支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来苑された時は心置きなく話せる場所を提供し、再度来苑していただけるよう配慮している。行きつけのお店や美容院の継続利用も支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、会話や交流できるテーブル・座席の配置が考慮されている。		テーブル別にグループ分けし、気の合う利用者同士が隣り合わせになるよう座っていただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の特養へ住み替えた利用者への面会や、家族からの相談を受けたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のケアの中で本人希望や意向を聞いたり、センター方式活用により本人本位で把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は本人や家族からの情報収集やセンター方式活用により、生活歴等の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	職員は日々の状態を毎日個別支援経過に記入し、状態変化時にはカンファレンスを開催し、有する力や現状を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、本人及び家族にも参加していただき必要に応じ主治医にも意見を聞き、それぞれの意見が反映されたケアプランとなっている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時には早急にカンファレンスを開催し、現状に即した計画を作成している。又、期間に応じて見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々に支援経過を記入し、重要な事項はフロア日誌の記入と申し送りにて全職員が情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している特養の看護師・機能訓練士・居宅介護支援部から支援を受けたり、催し物の参加、本人家族の状況に応じた事業所内での転居など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域文化交流展への参加、消防署立会いの避難訓練、民生委員や小中学生の訪問など協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて他のケアマネジャーや事業者、相談員とは連携を図り支援している。特に入院後の支援方針や他事業所への転居に際しては密に連携をとって支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市から委託事業として南地域包括支援センターを引き受けており、必要に応じて情報共有し協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所説明時に本人家族等の希望を取り入れ主治医を決めており、適切な医療が受けられるよう情報提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所専属の医師がおり、受診・往診、相談が出来るようになっている。又、個別に専門医がおり、状態報告し、相談が出来る体制になっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設特養の看護師といつでも気軽に相談しながら支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族了解の上、ホームで支援が可能な症状であれば早期退院も可能である為、密な情報交換を行っている。		協力病院の相談員にいつでも相談が出来る体制が出来ている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方、延命治療を望むのかなど、早い段階で本人や家族の意向を聞きだしている。		併設特養への申込書を頂いている方もいる。終末期のケアについて家族に理解を示して行きたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	特別な医療行為を必要としなければ、ターミナルまで利用可能であり過去に終末期直前まで利用した経験がある。		家族希望により、併設特養と連携し転居も視野にいれ支援している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には本人家族より生活歴や趣味・嗜好等の情報収集を行い、居室には馴染みの物品を持参してダメージの軽減に努めている。移り住む際には介護要約等にて情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者個々に合わせた会話や誇りやプライバシーを尊重した声かけや記録を念頭に置き対応している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	日常生活の中で本人の希望を聴きだしたり、個々の有する力にあわせ自己決定を促す機会を多く持てるよう支援している。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	食事時間などにも巾を持たせ、一人ひとりのペースで暮らせる様支援している。また、行事や催し事が予定されている場合には、事前に本人に確認をとり希望に添うようにしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	行きつけの美容院がある利用者に対しては、本人の希望により予約し、散髪できるように、又、個々の力にあわせ洋服を選んだり出来るように支援している。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	食事メニューには利用者の好物を取り入れており、一人ひとりの能力を見極め、職員と一緒に準備や片付けを行っている。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	入所時に嗜好品を聞いており、希望があれば提供できるように準備している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し声かけやトイレ誘導を行い、尿意・便意の維持の為にトイレで排泄できるよう排泄チェック表を用い支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて順番を決めたり、時間帯を選んでいる。希望があれば夜間入浴も可能である。		季節行事でもある菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいただいている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり自由に居室やコタツなどで休める環境にある。就寝時間も個々の生活習慣や状況に応じている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の有する能力に応じて役割を持っていただいたり、得意な針仕事・歌・体操などを披露できる場面を提供している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は一人ひとりの希望と力を見極め家族了解のもと、お金を所持し使えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物時の同行の誘いや、敷地内にある観音様へのお参り、天候の良い日の散歩等、外に出る機会を作っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに希望される家族も一緒に外出行事に参加している。又、希望者個別にイベント行事に出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自由に電話が掛けられるよう玄関前に公衆電話を設置している。又、書いた手紙を郵送したり、やり取りが出来るよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族へは状態報告を兼ね、来苑して頂けるよう促している。又、来苑時には心地よく話ができる場所の提供、再度来苑して頂けるようおもてなししている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で作成されたマニュアルを読んだり、研修に職員全員参加することで正しく理解し、身体拘束ゼロケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は施錠することの弊害と立地条件や安全性を考慮し、時間を決め開錠している。(AM10:00～PM16:00)		併設の事業所と情報を共有し、行方不明者の防止に努めている。帰宅願望が強い方には職員が同行している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーに配慮し、利用者個々の行動パターンを把握し、夜間は定期的に巡回を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの能力を見極め、必要な物品を管理していただいたり、職員管理のもと必要時提供したりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種マニュアルが整備されており、研修を通し知識を学び事故防止に取り組んでいる。個々の状態に合わせたケアを支援することで未然に防止できるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員は定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っている。又、作成されているマニュアルを読み返している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員と利用者は年2～3回の避難訓練を実施している。災害時には地域消防団の支援を受けられる協力体制が出来ている。		運営推進会議の地元代表の方より、食糧支援も可能であるとの申し出を受けている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者個々に起こりえるリスクを家族等に説明し、個人を尊重した上で家族と一緒に対応方法や改善策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者個々の身体状況の変化や異常の兆候を見落とさないように日々注意を払い、フロア日誌等の記録や申し送りにて早期対応に結び付けている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの病気や薬の効能を理解し、医師の指示とおりに服薬できるよう支援するとともに、症状の変化を確認し医師に報告している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は毎日水分摂取量の確保、食事には食物繊維を多く取り入れたり、蜂蜜入りのヨーグルトを提供するなど工夫し、排泄チェック表をつけ排便の把握と便秘予防に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者個々にあわせ食後の歯磨きの声かけや介助、口腔内のチェックを通じて日常的に支援している。		協力歯科医により必要時受診可能となっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリー計算を行い、メニュー作りに取り組んでおり、栄養士にもバランスをチェックしてもらっている。個々の食事量・水分量・体重増減をチェックし、調整している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが作成されており、全職員は研修会やシュミレーションを実施し、予防対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行き、新鮮な食材を提供している。調理用具は毎日ハイター液で除菌を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには植物を育て、安らぎを感じる絵や作品を飾っている。長椅子を置き、安全に靴の脱着が出来るようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けを利用者職員で行っている。天窓の心地良い光が差し込み、開放感の在る造りになっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングでは気の合う利用者同士が隣り合わせで会話が出来るよう席に配慮したり、デイルームには金魚を飼い、自由に過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物品を持ってきてもらい、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調基本マニュアル通り空調調節行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーで、トイレ・お風呂場・廊下に手すりが設置され、車椅子でも生活できるスペースが確保されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室やトイレの看板を解り易く掲示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には畑があり、野菜作りや草取りを職員と利用者が一緒に行ったり、玄関先の花の植え替えや観音様の参拝が出来るようになっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 毎日の買出しや季節毎、個別支援としての外出やレクリエーションを通し、戸外に出る機会を多くし気分転換を図っている。
- ・ 認知症レベルの違いがあっても、入居者同士が支障なく共同生活が送れるよう個別支援に力をいれ、支援している。
- ・ 車椅子でも生活しやすい居住環境（バリアフリー・広い廊下・浴室・トイレ・玄関のスロープ等）であり、また窓が多い造りから明るく開放的な空間となっている。
- ・ 特養との併設により重度化しても受け入れが可能なことで、家族の安心感にも繋がっている。
- ・ 感染症対策に力を入れており、感染症の時期には必ず勉強会を行い日常業務マニュアルとして予防に努めると共に、発生時に備えての物品も常備し対応している。